



戦前中国の風俗絵はがきの世界 (近藤恒弘氏 寄贈)

北支民衆風俗

菊池 敏夫 (非文字資料研究センター 研究員)



図1 北支民衆風俗 CUSTOMS IN NORTH CHINA



図2 大衆の理髪店
・北支の風俗・理髪店
理髪といふには余りお粗末で恐縮だが、而し大衆にとつては唯一の男子美容院。



図3 舌鼓を打ち
・北支の風俗・路上の汁粉屋
街の名物汁粉屋さん、今日も荷を降して商賣する。
“旨い旨い”と頬張つてゐる朗景。

今回は「北支民衆風俗」という主題でまとめられた7枚の絵はがきである。袋の表には「八枚組」とあるから、内1枚は実際に郵便として使われたのかもしれない。「北支」(華北)とあるものの、「来る夏迄に」がいかに華北の風俗らしいのを除くと、いずれも中国全土で広く目にする情形で、取り立てて目新しさは認められない。また7枚の写真の間に特別の関連性はない。それとは別に、この絵はがきセットには大きな特徴が2つ見られる。1つは、1枚ごとにそれぞれかなりの余白をとって、タイトルのほかに比較的丁寧な解説を施した点である。2つ目は、「日の丸」の入った「皇軍」関係のイラストないしシルエットを配した点で、絵はがき作成者の時代を反映した意図や心情を垣間見ることができる。ちなみに発売元は「大正写真工業所」とある。

袋の表紙に描かれたイラストは「大衆の理髪店」と同種のもので、中国ではよく目にする光景である。ただ、ここで1つ異なるのは客が「皇軍」兵士である点で、これは彼らが華北の人々の生活習慣に馴染んでいる様子をつよくアピールするものとなっている。

「舌鼓を打ち」は路上でお汁粉を売る「攤販(タンファン)」=露天商である。材料は小豆が多いが、緑豆、胡桃なども使う。冬は身体を温める小豆で、夏は身体を冷やしてくれる緑豆という説もある。「悲しみの盛儀」は葬列で、遺族は白装束である。富裕層の葬列は、本誌第39号でも紹介したとおり、大規模で、極めて賑やかに通りを進んでいく。

今回は「黄道吉日(嫁入行列)」を少し詳しく紹介する。「黄道吉日」とは、「よいお日柄」の意味である。解説には「ちよつと葬列と間違ひ易いが然し金光燦然たる新婦の花轎(花駕籠)は一見直ちにお目出度と判る」とある。「金光燦然」とは、花轎の光り輝く装飾を指すが、地域によっては駕籠に鮮やかな紅色の覆いをかぶせることもある。行列は新郎が先導するのが普通である。写真では、花轎を先導する新郎の立傘(長柄傘)が見える。張芸謀監督の映画『紅いコーリャン』は、山東省の農村を舞台に嫁入りの「花轎」行列が果てしなく広がる高粱畑のなかを新郎の家に向かって進むシーンで始まる。行列は、新郎の先導もなく、轎夫(担ぎ手)が4人、楽隊

が6人という小規模な編成である。しかし、楽隊が銅鑼、銅鈸（チャイナシンバル）、太鼓、葫芦絲（フルス。瓢箪の形をした笙）、唢呐（スオナ。チャルメラに似た木管の気鳴楽器）、そして唢呐を大きくした、ホルンのような楽器などを一齐に奏し始め、大音量を轟かせて進む姿は衝撃的ですからある。この楽隊の音楽は中国の人々の喜びの表現で、写真のように街中を進むときも同様に演奏される。新郎の家に近づくと、これに爆竹の嵐が加わる。

「駕（かご）に揺られて」の四人駕籠は、「旅行する時や登山の際、女や老人になくはならぬ便利な」交通手段である。駕籠の構造は花轎と同じで、座席は椅子式である。筆者は広西省桂林の漓江観光で傾斜を登る際に椅子式の二人駕籠を利用したことがあるが、比較的快適な乗り心地であった。「路傍に占う」は、「算命先生」と呼ばれる占い師である。この職業は殷周時代に起源をもち、文字占い、人相見などによって人生の吉凶、貧富貴賤などを占う。店を構えるものもあるが、写真は辻占いで、この類いは数も多く偽者も多かった。写真を見る限り、客のプライバシーなどはなさそうである。右下の半円形のなかの動物は「蝸（淡全蝸）」である。長江以北、北京以南の地域に特に多く生息するものであるから、これが「北支」風俗の一端を担う資格は十分にある。ひきつけ、破傷風、鎮痛の薬としての効能がある。

中国では紀元前から冬場の水を氷室で保存し、夏に利用してきた記録があるという。また、比較的新しいところでは、紫禁城には10数か所の氷室があり、「氷窖（ひょうよう）」または「氷窖（ひょうこう）」といった。現存する1つは、地面を1.5メートルまで掘り下げ、横6メートル×縦11メートルという規模で、床には石を敷き詰め、壁と屋根は石やレンガを積み、それを土で分厚く塗り固めて造り、密封性、断熱性が非常に高いということである。「来る夏迄に」は、厳しい寒さのなか天然水を滑り台に乗せ効率よく氷室に搬入する作業をとらえたものである。



図4
悲しみの盛儀
・北支の風俗・葬式
北支の風習中特筆すべきは冠婚葬祭の盛儀であらう。殊に葬儀は厳肅を極め、靈柩には銀白の花や鳳凰を飾り立て長々と続く……。



図5
黄道吉日
・北支の風俗・嫁入行列
北京の街などでよく出遇ふこの行列は花嫁の輿入（こしいれ）であつて、ちよつと葬式と間違ひ易いが然し金光燦然たる新婦の花轎（はなかご）は一見直ちにお目度と判る。



図6
駕に揺られて
・北支の風俗・登山四人駕籠
旅行する時や登山の際、女や老人になくはならぬ便利な一種の交通機關、日本の昔の雲助ならぬこれはモダンな四人駕。而も椅子式になつてゐるから面白い。



図7
路傍に占ふ
・北支の風俗・賣卜者（ばいぼくしゃ）・蝸
果してどんな運勢が出るか？それよりもこの賣卜者を通じて、笑ふに笑へぬ、嘆くに嘆けぬ人生の断面が窺へるではないか。



図8
来る夏迄に
・北支の風俗・天然水の貯藏
冬の脅威が齎（もたら）す降雪のシーズン、やがて来る夏に備へる爲自然の水を貯藏して置く……。